

アダチク



自然が豊か

取り組みが先進的!

人が温かいよ~

美味しいものがいっぱい!

穴場タウン
千住

チャレンジする

足立区 職員採用案内 & 区政要覧 2024

例年23区合同説明会の席上では、「特別区で働くことは現場の中に身を置くこと。地域の皆様の反応を肌で感じ取れることが「ご味」と申し上げています。

現場の「熱さ」を体感できる反面、時には区民から厳しい指摘や注文を受けることもあります。けれども、それこそ「自己」の成長と「自治体」発展の鍵なのだと思います。

地域課題は23区それぞれです。少子化、高齢化といった一見、同じように見える課題であっても、アプローチは各区で異なります。また区民ニーズも多様化しており、若年者、高齢者とひとくくりにしての対策では、真に必要としている人に支援が届かないこともあります。ここが皆さんの腕の見せ所。力を試す場は限りなく広がっています。

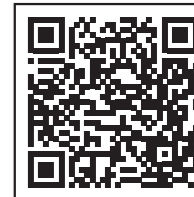
「自分でできるだろうか」と不安を感じる必要はありません。先輩も上司もしっかり新人の皆さんをサポートします。そして区長の私自身も発展途上と一緒に成長していきます。

「自分の力を人や地域のために生かしてみたい」「成長を実感したい」という皆様、足立区役所の仲間として、共に汗を流しましょう。



足立区長(平成19年6月就任)
近藤 やよい

あなたの いろいろ、あるある お好きな方法で、足立区の情報をもっと!



かんたん! 友だち登録するだけ

「足立区LINE公式アカウント」では、災害情報など16ジャンルから希望した情報が届くほか、月2回の「あだち広報」の発行をお知らせ。イベントのポスターなども随時配信しています。



イケてる映像、盛りだくさん!

YouTube「動画deあだち」では、区長メッセージや広報番組などを配信中。毎年恒例の住民参加型CMコンテストの作品なども、なかなかのクオリティですよ。



約10万ユーザーが登録しています

「Aメール」では、災害や防犯・防火、子どもの安心情報など、16のジャンルからあなたが希望した情報がメールで届きます。
*令和5年12月現在



役所のわりに、結構いいね!

役所の情報ってカタイよね...と思っているあなた。そうわずに「足立区公式SNS」を一度ご覧あれ。まじめな情報はもちろん、イベントや最新のまちネタなどを配信中。災害などのいざという時は、緊急情報もお伝えします。

知ると分かる。すると変わる。



SDGs MODEL ADACHI

足立区 職員採用案内 & 区政要覧 2024 令和6年1月発行

発行/足立区 〒120-8510 東京都足立区中央本町1-17-1

編集/足立区 総務部 人事課 Tel/03-3880-5831 mail/jinji@city.adachi.tokyo.jp

表紙/足立区職員(上沼田北公園)

写真(足立の花火)/撮影 Taloon

写真協力/(一財)足立区観光交流協会、加藤有紀(フォトグラファー)

足立区職員採用情報/https://www.city.adachi.tokyo.jp/jinji/ku/kuse/j-mezasu.html

X (@adachi_city)

facebook/https://www.facebook.com/adachi.city



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

特集
足立の魅力
1
千住



千住にキャンパスのある東京藝術大学と足立区などが一緒に展開するまちなかアートプロジェクト「首まち千住の縁」が開く千住の文化サロン「仲町の家」。江戸時代に千住のまちづくりに携わった石出掃部介吉胤（いしでかものすけよしね）のご子孫の家で、しばらく空き家となっていたが、今は、人と人、人とまち、人とアートをつなぐ拠点となっている。写真は仲町の家で活動する東京藝術大学（千住キャンパス）4年生（撮影時）



北千住駅すぐの飲み屋横丁



にぎわう商店街

若者がチャレンジするまち

新旧モザイクな 穴場タウン 千住

メディアでの露出が増え、このごろ話題の千住（※）。荒川と隅田川に囲まれた島のようなまち、足立区のキータウンをのぞいてみよう。 ※ 駅名は北千住

住みたい街1位

一人暮らし女性向け賃貸物件検索サイトWoman CHINTAIユーザーが選んだ「住みたい街ランキング」（2023発表）の1位に「北千住」が選ばれたことは記憶に新しい。

各種住まいのサイトで近年注目の千住は、メディアでの紹



路地裏の空き家だった民家をリノベーションしたカフェわかば堂（右手前）。今ではこの路地に何軒ものリノベーション飲食店が建ち並ぶ



「カフェわかば堂」について「路地裏で家賃が安かったんです。立地が悪くても一度来店されたお客様が気に入れば必ずまた来てくださる。古い建物に興味を持つ若い世代が多いですね」と話す。古い建物の活用、リノベーションは新築とは違って、根気も要るし難しさもあるが、家賃が抑えられることもあり、千住では、若い世代がチャレンジしている事例が多い。

10年以上空き家だった物件を、飲食店やパン教室の入るシェアスペースにリノベーションした「せんつく」を運営する建築家の青木公隆さんは、アーティストやクリエイターと一緒に

空き家活用に知り組んできた。

また、20年以上廃墟だったボーリング場と浴場跡をカフェを併設したアトス



シェアスペース「せんつく」と青木さん



昭和13年築の和洋折衷が印象的な板垣邸が、2020年、地元起業家の手で魅力的な和食店に生まれ変わった（国登録有形文化財）。

介も増えている。都会で働く散歩女子のハイブル「オズマガジン」は2023年、「北千住」を特集し、話題となった。メディアで取り上げられることの多い古民家カフェやネオ酒場は、空き家や空き店舗を活用したものが多く、背景には、江戸四宿のひとつ、千住宿として江戸時代からまちが栄えてきたこと、その後それぞれの時代の建物や町割りが残っているという千住の特徴がある。



江戸時代に江戸はもちろん近郊からも患者が訪れた「ほねつぎ」の名倉医院は、現在は整形外科に

若い世代が古い建物を活用

千住に6軒のリノベーション系飲食店を展開する島川一樹さんは、最初に手がけた

ポットとして再生した「BUOY」など、空き家や廃墟を活用したアトスポットも増え、千住は近年、アートファンにも人気のまちだ。



前衛的なアート展示や演劇が人気のBUOY。代表の岸本佳子さんと

かつては、千円でべろべろに酔えるいわゆる「せんべろ」のまちとも呼ばれ、飲み屋街や、にぎやかな商店街のイメージが強かった千住だが、5つの大学ができ、

乗降客数が日本でも指折りの一大ターミナルの利便性が功を奏し、近年は「親父のまち」から「若者のまち」とイメージが変わりつつある。

宿場町だった旧日光街道沿いに残る江戸時代の地漣紙問屋、横山家





散歩が楽しい見沼代親水公園は、かつての農業用水路を生かした親水公園。ほかにも区内には水辺のある公園が多い

心にゆとりが持てるまち

川があること 緑があること

足立区は、都心に近く便利なのに、水と緑が身近にあり、
疲れた日には心癒してくれる場所がある。

「コロナ当初は、デリバリーサービスを頼んだり、お弁当を持って行ったりして、家族でゆっくり過ごしました。土手は空が広く、特に早朝の空は青くてすごく好き。遠くまで景色を見渡しながらのジョギングも気持ちいいです」（足立区で子育て中の和田真寛さん）。

都心に暮らすことは魅力だが、一方でストレスと背中合わせ。忙しい日常の中で、身近で自然に触れられるのは貴重だ。

足立区は四方を川に囲まれている。河川敷が広く、区民の憩いの場となっている荒川は、実は大正時代から昭和初期にかけて、人の手で掘られた人工の川（放水路）だ。今では子育て世代や、ランニング、サイクリングを楽しむ人たちにも親しまれる存在となっている。荒川がふるさと足立の象徴と言う人も少なくない。また、

水辺がいっぱい

足立区はタコさんすべり台発祥の地ともいわれ区内に11体の特色あるタコがいるほか、イカ、鬼、恐竜、ミニ列車など、ユニークな遊具が多い



さらに、東京2020大会を機にスタートしたオランダ連携プロジェクト「Game Changer」が、バラスポーツで社会を変える〜が縁となり、アジア圏で初めてバリアフリー対応の多目的スポーツ施設「スペースクラフトコート」が総合スポーツセンター公園に設置された。足立区ではパークインベシジョン推進課が中心となり、特色ある公園づくりを進めるとともに、インクルーシブ化にもチャレンジ中だ。

また、区立の都市公園面積は東京23区2番目。なかでも、農業体験なども楽しめる都市農業公園、都立公園で23区3番目の広さを誇る舎人公園、細長く続き遊具や水辺なども充実している東綾瀬公園など、特色ある大きな公園も魅力だ。「公園天国・あだち」と呼ぶ人もいほど。



散歩が楽しい舎人公園

公園のまちあだち

様々な文字にも登場する隅田川のほか、川、綾瀬川、毛長川、圀川など河川が多い。水辺の散歩が身近で楽しめる親水緑道が多いのも魅力だ。

あだちは桜のまち

もうひとつ注目したいのが、区の木でもある「桜」だ。区内には、桜並木や桜を楽しむ公園が多い。多いだけでなくその一つひとつにたくさんのお話がつまんでいる。

たとえば、荒川土手に植えられた約44キロの「あだち五色桜の散歩みち」。川風に吹かれながらのんびり歩いて約2時間。開花の時期はもろろん、緑や紅葉の季節もとても気持ちがいい。明治期に住民が育て、都内有数の桜の名所となった川辺の桜を、平成の時代に区民などの寄附を募って復活させた（一部区間を除く）。五色桜は、明治期に78種といわれる色とりどりの桜が植えられた土手が「五彩の雲が棚引く如し」と評されたことから名づけられたという。

水と緑は足立の原風景であり現風景。にぎわいと自然。住民の思いが支えてきた風景は足立の誇りだ。



桜つづみ（堀之内）

広い荒川の河川敷で、お子さんと鬼ごっこで走り回る和田さん。
お子さんものびのびと楽しそう

特集
足立の魅力
2
川と緑



特集
足立の魅力
3
人のまち



令和3年4月に花畑に開設された文教大学 東京あだちキャンパス。
文教大学のキャッチコピーは「育ての、文教。」

写真提供：文教大学



足立区には、子どものためのユニークな体験施設がいろいろある。子ども時代ならではの、かけがえない体験の機会をたくさん提供する(15ページも参照)



人を大切に育てるまち

夢かなえよう 足立区で 生きるチカラを育てるまち

足立区の魅力は「人」にあり。ちょっとおせっかいで人情深い。足立区で暮らし、学び、働く人々…その一人ひとりが生き生きと自分らしく輝くために。人づくりは未来づくりだ。

6大学のまち

令和3年4月、足立区と埼玉県との都県境に位置する花畑^{はなはた}に文教大学東京あだちキャンパスがオープンした。千住エリアにある5つの大学と合わせ、足立区は専門分野の異なる6つの大学と一万七千人もの学生が通うまちになった。

若者の流入により活気が生まれ、まちの景色やイメージも変わったが、足立区が大学誘致に力を入れてきた大きな狙いはもう一つある。それは、「6つの大学とまちがつながる」こと。区民に開かれた講座やイベント、産学官連携など、各大学の特色を生かした連携が進んでいるのも足立区の特徴だ。

足立区の6大学連携のキャッチフレーズ

夢かなえよう。

with あだちの6大学

様々な連携を通じて、大学生は学校だけでは学べない経験をここ足立区で積んでいる。さら



足立区がNPO法人キッズドアの力を借りて運営する学習教室「Kids リビング global」。外国にルーツを持つ子どもたちの日本語学習のほか学校の授業のフォローも

多様性のまち

家庭環境など、自分ではどうすることもできない生きづらさを抱える子どもたちがいる。足立区はその課題に全力で向き合っている。

に、足立区の子どもたちは大学を身近に感じることで、夢や目標を持ち成長する。足立区に6つの大学があるメリットは限りなく大きい。



学童だけではカバーしきれない子どもたちがいる、との思いから空き店舗を活用してスタートした駄菓子屋irodori。大学生が運営する、子どもたちの新しい居場所だ

例えば、23区の中でも外国ルーツの人々が多く暮らす足立区。言葉の壁や習慣の違いで生きづらさを感じている外国ルーツの子どもの孤立を防ぎ、一人ひとりの可能性を引き出すため、区やNPOなどが連携し、学習支援や居場所づくりに力を入れている。

若者支援、子どもの居場所づくりを志す団体も少なくなく、連携も進む。どこかおせっかいな下町文化は現代にも受け継がれている。足立区は、誰一人取り残さないまちをめざす。



足立区の子どもたちは給食が大好き。「いただきます!」を元気いっぱいポーズしてもらった

給食が「おいしい」まち

足立区の子どもたちに学校の自慢を尋ねると、「給食がおいしい!」の答えが多く返ってくる。子どもたちの「絶対味覚」を育てるため、旬の食材や天然出汁にこだわりの、栄養バランス抜群の給食を提供するのが、足立区が全国に先駆けて取り組んできた「おいしい給食」だ。各校の栄養士が工夫を凝らしたメニューがウェブ配信され、レシピ本まで出版されるなど、評判を呼んでいる。

足立区の「おいしい給食」は環境にもやさしい。小・中学校の総残菜量は、平成20年度の381トンから、令和4年度は115トンと3分の1以下にまで減少した。

子ども自身が正しい食習慣と自分の健康を守る食に関する知識を身につける独自の取り組み「足立スタンダード」が、足立区の子どもたちの未来を切り拓く。

チャレンジ 100年に1度のチャンスを生かす

魅力的なまちの将来像を描き、民間活力の導入や区有地等を効果的に活用することでイメージアップを図る足立区独自のまちづくりの手法「エリアデザイン」が進行中。100年に1度の進化が起こる今、注目の4つのエリアを紹介する。



テーマは“健康”

江北エリアでは、足立区の都営住宅跡地に令和4年に開院した「東京女子医科大学附属足立医療センター」を核とした、「健康」がテーマのまちづくりが展開されている。令和6年度に完成予定の「すこやかプラザ あだち」には、高齢者の医療と介護を結ぶ「医療・介護連携センター」が新たに設置される。また、直近の小学校跡地にはスポーツと健康づくりが楽しめる施設の着工も予定されている。江北エリアは「住んでいるだけで自ずとこころもからだも健康になるまち」をめざす。

救急医療や災害時医療の拠点“東京女子医科大学附属足立医療センター”

住民悲願！「開かずの踏切」が解消

足立区の“北の玄関口”である竹の塚では、令和4年に、長年駅の東西を分断していた「開かずの踏切」が鉄道高架化事業により解消された。令和6年5月には駅高架下を活用した商業施設がオープン予定で、まちが大きく変化する。今後は、駅前団地のストック再生（※）と連携。“にぎわい”と“住民の交流”を創り出し、「ウォーカータウン竹の塚」をめざす。

※ 管理開始から40年以上経過する団地の、高齢化に対応するため、建て替え・集約・用途転換・改善の4つの手法を用いて、地域及び団地ごとの特性に応じた活用を行うこと

鉄道の高架化とともにリニューアルされた竹ノ塚駅は木とガラスが印象的なデザイン



江北エリア

竹の塚エリア

7.3.3の

エリア・デザイン

千住エリア

綾瀬エリア



約2.6ヘクタールの土地に広がる東京電機大学東京千住キャンパス



空き店舗だった高架下物件にオープンした“あやセンター ぐるぐる”

進化を続けるモザイクタウン

平成24年、千住に5つ目の大学、東京電機大学が開校したことにより北千住駅東口が大きく様変わりした。各大学の特色を生かした子ども向けの講座や、身近に大学生がいることによる波及効果は大きい。

また、千住大橋駅付近も近年大きく風景が変わった。かつて大規模な工場があった土地が再開発され、ファミリー層が多く住むエリアとなった。今後も駅前用地の活用、大型マンションの建設など更なる開発が予定されている。古き良き町並みや文化と、変わりゆく風景。新旧入り混じるモザイクのような千住から目が離せない。

SDGs未来都市モデル地域

内閣府がSDGsの優れた取り組みを行う全国の自治体の中から選定する「SDGs未来都市」と「自治体SDGsモデル事業」に、令和4年度都内で唯一ダブル選定された足立区。

SDGs未来都市のモデル事業の舞台である綾瀬では、「人づくり」と「場づくり」に重点を置いた事業を展開中。なかでも、「やってみよう、やってみよう」をコンセプトにオープンした「あやセンターぐるぐる」では、様々な人や活動がこの場で交わり、協力しあって、やってみようことを実現できるコミュニティの循環（＝ぐるぐる）を生み出している。

まちに安心と活力を

～未来に向かって更なるチャレンジ～

足立区はチャレンジする区だ。

様々な困難や課題も、住民や企業、行政がそれぞれが力を出し合い、乗り越えてきた。

“治安”面でのチャレンジで刑法犯認知件数はピーク時から8割減。

大学や大学病院の誘致などを積極的に進め、まちは大きく進化した。

次のステージでめざすのは、区民の誰もが安心を実感でき、持続可能な活力あふれるまち。

100周年に向かって新たな一歩を踏み出した足立区。

次の10年のキーワードは「安心」と「活力」だ。

チャレンジ 野菜を食べて、健康寿命を延ばすまち

平成25年度に、それまで進めていた総花的な健康対策から方向転換し、当時区民1人あたりの医療費が23区で最も高かった「糖尿病」対策に軸足を移し、独自の施策を進めてきた足立区。「あだちベジタライフ」と銘打ち、子どもから大人まで野菜摂取にこだわった施策を展開。毎年6月の食育月間を中心に、区内の飲食店やスーパーなどが加入する約800店の“ベジタライフ協力店”やコンビニエンスストアと連携し、野菜を食べやすい環境づくりを進めてきた。

現在は「糖尿病」の医療費が23区で16位と改善し（※1）、健康寿命もスタート当時に比べ男女とも約2歳延びた（※2）。

これからも「住んでいるだけで自ずと健康になれるまち」に向かって進み続ける。

※1 東京都国保連特定健診・保健指導支援システム 生活習慣病の状況（外来）

※2 「厚生労働省科学研究の健康寿命算定プログラム」により、平均自立期間を区が算出



区内のスーパーやレストランなど「ベジタライフ協力店」と連携し、野菜の積極的な摂取を呼び掛けている

チャレンジ デジタル先進区

保育園は、スマホから。24時間入園申し込みできます



オンラインでの保育施設入所申込を勧奨するチラシ（令和4年度作成）

「あだち」区のデジタル・「トランスフォーマー」推進キャラクター「あだら」



生産年齢人口の減少により、将来的に職員が減っていくことが予想される中でも、行政サービスの質の維持・向上は避けては通れない。それがDX推進のきっかけとなった。

令和3年度に民間企業出身の「ICT戦略推進担当課長」を登用。「行かない・書かない・待たない」をコンセプトに、オンライン申請など区民サービスのデジタル化を加速させた。中でも保育施設の入所申し込みは既に約7割がオンライン申請を利用。この数字は23区でもダントツだ。オンライン申請が可能メニュー数も約600と23区でトップだ（※令和5年11月時点）。さらに今年度は、スマートフォンなどから事前に申請書を作成できるサービスや、各手続きの電子通知サービスを導入予定だ。

チャレンジ 防災・減災で安全・安心なまちを築く

四方が川に囲まれていることや、木造住宅が密集している地域が存在するなど、他自治体に比べ災害時の被害が大きく想定されている足立区では、安全・安心なまちを築くためにハード・ソフト両面で対策を進めている。

ハード面では今年度から、旧耐震基準の木造建築物の解体助成費用を最大200万円とするなど、老朽化した建物や家屋の対策を強化。ソフト面では、令和4年度に専門部署を立ち上げ、水害時に自分ひとりでは避難できない方（避難行動要支援者）への支援を強化した。「誰が」支援し「どこに」避難するかを決める「水害時個別避難計画書」を、区がともに作成するなど、「誰一人取り残さない」を合言葉に取り組みを推進している。



旧耐震基準木造建築物のイメージ



子育てしながら管理職をめざす

事務職

多様性社会推進課男女参画推進係
平成25年度採用

—仕事と育児の二刀流に奮闘中—

2人目の子どもが生まれたときに1年間育児休業を取得しました。大変なことも多々ありましたが、2人の子どもと一緒に父親として成長でき、またとない濃密な時間を過ごせました。

復職した現在は、子どもの園への送りや夕食作りのため、朝、夕に部分休業を取得しています。勤務時間が通常より1時間短いため、効率よく業務をこなす必要があり、小さな悩みでも周りに相談、報告することを心掛けています。

—管理職昇任に向けて日々勉強中—

入区して10年。様々な管理職の方と仕事をする中で、自分自身も同じ視点で仕事をしてみたいと思ったことが管理職選考受験のきっかけです。家族や周りの支えがあり合格することができました。

現在は、議会対応や会議の場で管理職がどういった視点で発言をしているかということに勉強しています。将来は、職員間のささいな困りごとでも相談しあえる、風通しの良い組織作りができる管理職をめざしたいです。

子育て！昇任選考！フル稼働です！



事務職

情報システム課計画調整係
令和5年度採用

—職員の庁内システムをサポート—

庁内システム関連の契約・支出やシステム関連会議のスケジュール調整などを担当しています。

不用になったパソコン、プリンター、スキャナーなどを売却したり、LANケーブルを購入したりするほか、各所管の手書きで保管されているデータをデジタル化するためのスケジュール調整などを行っています。

—自ら学ぶことを意識しています—

教えていただいたことを覚えるのはもちろんですが、先輩職員の仕事の働きぶりを見て、聞いて、日々勉強しています。

情報システム課では民間企業の方々とやり取りする機会が多いので、いくつか確認したいことや報告したいことがある場合は優先順位を決めて話したり、相手のことを意識して行動したりすることが大切だと学びました。

休日はLIVEでリフレッシュ



相手の立場に立って行動を

Hello先輩！先輩の働きぶりを紹介！



「産んでよかった」と感謝の言葉

保健師

江北保健センター地域保健係
令和4年度採用

皆さんの健康を守ります

—地域で暮らす全ての方々の健康を守る ことができる仕事—

保健センターでは、母子保健や精神保健を中心に、健診業務や健康相談業務を行っています。私も担当地区の区民の方に電話相談や家庭訪問などを通して、個々の健康課題の解決に向けての支援をしています。また、母子保健担当として、乳幼児健診の従事、母子講演会の企画なども行っています。

—悩みや不安を言い出しやすい環境づくりを心掛けて います—

ご相談に来られた方々には積極的に声をかけることと、まずは相手の話を最後まで聞き、常に寄り添う気持ちを忘れずに関わることを意識しています。

以前、妊娠に不安を感じていた方に対して、継続的にお会いする中で、妊娠や出産に対して前向きになり、「産んでよかった、ありがとう」と言ってくれた時には保健師としてのやりがいを感じました。



技術職（建築）

東部地区建設課建築第二係
令和5年度採用

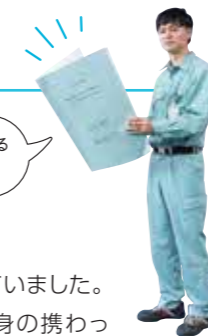
やりがいのある仕事です！

—仕事の成果を肌で感じたい—

前職では建物を新しく建てる仕事をしていました。全国規模で仕事を展開していたため、自身の携わった建物を身近に感じる事ができず、地域に密着して働くことができる公務員を受験しました。また、足立区は緑豊かで人とのつながりを感じやすい地域だと思い、希望しました。

—職場と現場を駆け回っています—

小・中学校や図書館、保育園などの公共施設の修繕や改修の監理業務と、工事図面の作成を担当しています。監理業務では外壁や床、屋根といった建物全般の品質管理に特に気を使っています。適切な材質が使われているかや壁の厚みが図面通りになっているかなど、1つひとつを細かく確認しています。工事が終わり、施設の関係者や近隣の区民の方々に「学校をきれいにしてくれてありがとう」と言われたときは、とてもやりがいを感じました。



地域に密着した仕事をしたくて



若手職員のホンネ

就職を機に上京してきた若手職員4名に足立区で働く魅力を話してもらいました。

足立区を希望した理由は？

技 家族が公務員である影響もあり、公務員として働きたいと考えていました。足立区は人口が多く、川に囲まれているため、有事の際に被害が大きくなるのが想定され、私のやりたい防災まちづくりに深く関われると思います。

保 私は、行ったことのない場所に赴き新しいものに触れることが好きな性格で、大学までは地方で生活しており、社会人になったら全く違う環境で色んな経験してみたいという気持ちがありました。大学の時の実習で疾病予防や健康増進といった一次予防に興味を持ち、事業の一つとして糖尿病対策に力を入れて、成果を出している足立区で働いてみたいと思いました。

事 私は、子どもの貧困対策に取り組みたいと思っていました。元々は、高校の社会科教員志望でしたが、教育現場について学ぶ中で、家庭の環境によって勉強したくてもできない子や進歩できない子がいることを知り、貧困をボトルネックの課題として挙げ、先進的な取り組みをしている足立区でなら幅広い立場から貧困問題にアプローチできると思います。

福 みなさん、施策をしっかり調べてやりたいことを実現するために足立区を選んだんですね。私は、単純な理由ですが、足立区は「豊かな自然がありつつ、都会の利便性も味わえるバランスの取れた環境」というイメージがあり、地方出身者でも安心して働ける環境なのではないかと思い、足立区職員になろうと決めました。

入区して意外だったことは？

保 訪問時に自転車を利用することです。地方では車の移動がほとんどのため、足立区では地域に出やすく、担当地域の様子を把握しやすいところがいいなと思いました。

福 そうなのですね。私は逆に訪問時は自転車だと思っていましたので、体力的に心配でしたが、足立区には坂道がないことに驚きました。なので、長距離の外出も苦ではありません。

技 東京都内だけ公園が多かったり、自然が豊かだったりして、地元に近い雰囲気を感じられたので土地柄なじみやすかったです。

事 就職を機に足立区に引っ越し、一年半近く住んでいますが、とても暮らしやすい点です。正直、住むまでは少し不安に感じていましたが、ネットや噂で言われている「治安が悪い」と感じることはないですし、都心へのアクセスも良くとても快適です。商店街のおじさんやおばさんも気さくに話しかけてくれ、人情のある温かい町だと感じました。地元の友人にもいつも足立区の魅力を話っています。

足立区の魅力をお話してください！

福 おいしいごはんが魅力的だと思います。足立区にはラーメン屋、居酒屋、カフェなど様々な飲食店があり、食べたいものが必ず見つかるほど選択肢があります。おいしいものを食べると仕事の疲れも吹き飛びますよね！

保 自然が豊かなエリアや買い物に便利なエリアなど、その地域によって違う特色があることだと思います。また職員の数が多く、同期や同じ職種の保健師がたくさんいることです。職員同士のつながりがあると、他の部署について知ることができ働きやすさにつながっていると感じます。

技 私も商業的な便利さのある都会的なところと、昔ながらの町並みや川に囲まれていて公園も多いなど自然豊かなところが両立しているところですね。

事 北千住です！江戸時代に宿場町として栄えた歴史的背景があり、今でもなお、昭和を感じるレトロなお店から学生に人気なオシャレなカフェや居酒屋などが入り交ざり、活気にあふれる町です。充実した大型商業施設もあるため、買い物から食事と一日中楽しめます。このパンフレットを読んでくださった方も足立区にお越しになられた際は、ぜひ足立のキータウン「千住」に立ち寄ってみてください！



都心だけでなく公園が多い

職員同士のつながりがある！

先進的な取り組みが盛りだくさん

なんでもかんでもさっさとやっちゃう！

技 技術職(土木)
建築防災課密集第二係
令和4年度採用
新潟県出身

保 保健師
中央本町地域・保健総合支援課地域保健係
令和2年度採用
山形県出身

事 事務職
協働・協創推進課
協働・協創推進担当
令和4年度採用
愛知県出身

福 福祉職
障がい福祉課西部支援係
平成29年度採用
佐賀県出身

東京の“お役所ご飯”ベスト10で1位に選ばれたこともある区役所14階の展望レストラン「食堂ソラシタ」で



新人職員に聞いてみました



1 足立区を希望区に選んだ理由は？

- 1位 地元・なじみ深い場所だから
- 2位 通勤しやすいから
- 3位 施策に魅力を感じたから
- 4位 自然が豊かだから
- 5位 住みやすいと感じたから



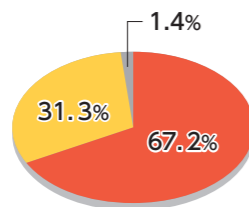
2 足立区役所で働いて良かったことは？

- 1位 職員が親切で動きやすい
- 2位 ワーク・ライフ・バランスがとりやすい
- 3位 仕事にやりがいを感じる
- 4位 たくさんの人に関われる
- 5位 庁舎がきれい



3 職場の雰囲気は？

- とても良い 67.2%
- まあまあよい 31.3%
- 良くない 1.4%



4 足立区役所に改善してほしいところ

- 1位 施設設備に新しいところと古いところで差があるところ
- 2位 ペーパーレスの推進
- 3位 業務量に差があるところ
- 4位 ネットワーク環境
- 5位 職場が駅から遠いところ



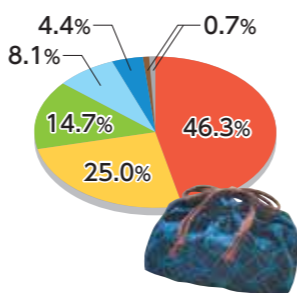
5 月のおおよその残業時間

平均 10 時間
※アンケートに回答した新人職員137人の平均残業時間



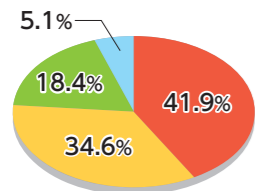
6 お昼ごはんはどうしている？

- 弁当を持参 (46.3%)
- コンビニ等で購入 (25.0%)
- 職場でお弁当を注文 (14.7%)
- 外食 (8.1%)
- 食堂 (4.4%)
- 自宅 (0.7%)
- 食べない (0.7%)



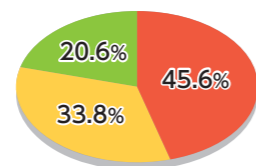
7 通勤時間

- 30分未満 (41.9%)
- 30分以上1時間未満 (34.6%)
- 1時間以上1時間半未満 (18.4%)
- 1時間半以上 (5.1%)



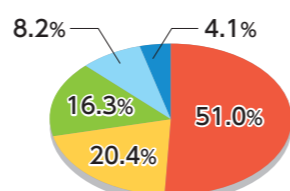
8 入区後の居住地

- 足立区内 (45.6%)
- 東京都以外の関東 (33.8%)
- 足立区以外の東京都 (20.6%)



9 月の家賃は？ (一人暮らしの方のみ)

- 6万～7万円未満 (51.0%)
- 7万～8万円未満 (20.4%)
- 6万円未満 (16.3%)
- 8～9万円未満 (8.2%)
- 9万円以上 (4.1%)



新人×育成担当

(人事課人材育成係)

初めて飛び込む世界は不安がつきもの。

足立区には新人職員に対して1年間、育成担当職員がついてサポートする「新任職員育成担当者制度」があります。

— お二人はどんな仕事をしていますか？ —

石田 職員の研修に関する業務を行っています。中でも私たちは主に係長級以上の職員を対象とした研修の企画、運営、当日の司会、振り返りや翌年度の計画まで担当しています。中村さんは仕事に慣れましたか？

中村 はい。最初は右も左もわからず、覚えることがたくさんあって大変でしたが、石田さんをはじめ、係の皆さんに支えられて、毎日少しずつできることが増えていったと思います。研修は、実施日の約3ヶ月前から準備を始める必要があるため、計画性を持って行動することが重要です。現在は、担当している研修について、係で毎週行う進捗管理ミーティングのもと、スケジュール管理も含めて一人で進めることができるようになってきました。

— 新任職員育成担当者制度について —

石田 とにかく、声をかけやすい雰囲気を作ることを心掛けました。4月初旬は、しつこいくらいに「何度質問されても怒らないからね!」と言っていたと思います。仕事以外のことも色々とお互いに話したよね。

中村 そうですね。石田さんが気軽に声をかけてくれるので、困ったことや悩んでいることをいつでもすぐに相談できました。自分の仕事を理解してくれ、アドバイスをくれる先輩職員が一人確実にいることは新人職員にとってはとても心強い制度だと思います。プライベートでも最近一人暮らしを始めた私に、キッチンツールについて教えてくれました。石田さんからいただいた「フライパンで焼き魚ができるアルミホイル」大事に使っています(笑)

— お互いへのメッセージ —

石田 これからたくさんの職場を経験していくことになると思いますが、どんな職場にも通じる「基礎的な考え方」があるとと思います。最初の職場で知り合ったのも何かの縁。私に教えられることはできるだけ伝えていくので、頑張ってお互いに吸収していきましょう。

中村 ありがとうございます。2年目ではこれまで教えていただいたことを生かし、さらに活躍できるよう頑張っていきます。これからもよろしくお願いします。

石田さんから司会用のバインダーをいただきました。使いやすく重宝しています。



何度質問されても怒らないからね!



先輩職員：石田
平成30年度採用



新人職員：中村
令和5年度採用

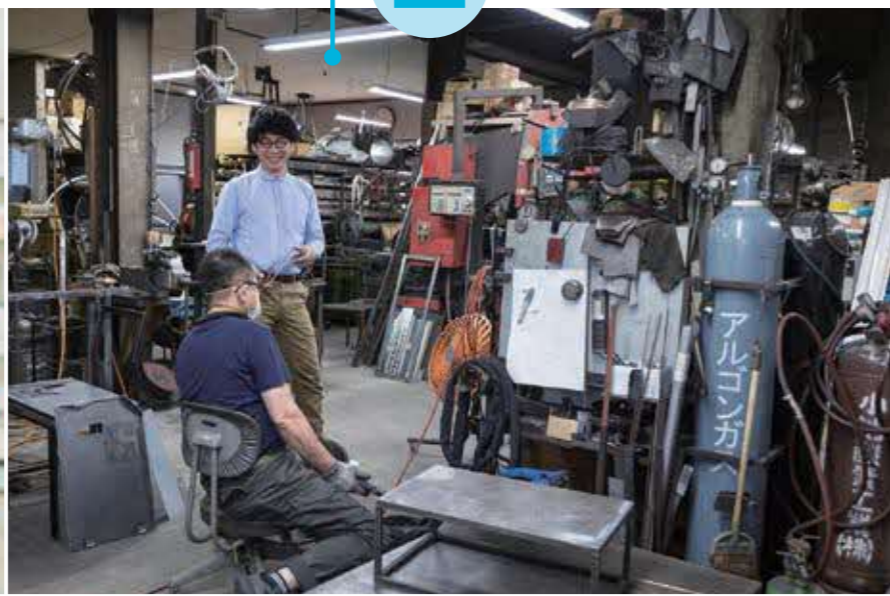
創

創業するなら「足立区」で！

創業支援施設や起業セミナー、相談窓口など、足立区の創業支援は伴走型でかつ多彩です。「創業プランコンテスト」は優秀なアイデアを持つ人の創業を応援、最大200万円の補助金は他区と比較しても金額が大きく、夢の実現に向けて区が強力にサポートします。足立区で創業する人は地元へ愛着を持つ「足立LOVE」の人が多くが特徴。創業者同士のコミュニティも活発です。

5つの路線が乗り入れる北千住は、都心や空港へのアクセスが良く、しかも都心に比べて物件の価格が手頃なので、創業には最適のまちです。

令和4年度「創業プランコンテスト」で最優秀賞を受賞した(株)葉Zaikoの海老沼さん



ものづくりのまち

足立区は2,000を超える町工場がある、東京屈指のものづくりのまち。皮革、金属加工、プラスチックから縫製、印刷まで、多様な工場の熟練の職人たちが、優れた製品、技術を生み出しています。最近では区内大学生のアイデアで、異なる業種の町工場がタッグを組み新製品を開発するなどの取り組みも。

さらに、メイドインあだちを世界に発信する企業や、区内企業を牽引するリーディングカンパニーの創出に挑戦しています。

デザインのカで足立区のものづくりを応援する「足立道具店」の市橋さん(右)。金属加工の福澤製作所で

工



※は足立区で生まれた製品

足立区のコト

足立区ってどんなまち？
特徴ある産業のほか、個性的な施設や、話題のイベントなどを紹介します。



足立区で江戸時代から営む農家、宇佐美農園では小松菜を区内の学校給食にも提供

都市農業のチャレンジ

足立区の農地面積は23区中3位、小松菜や枝豆などが特産です。新しい都市農業にもチャレンジしており、特に学校との連携はユニーク。おいしい給食日本一をめざす足立区の給食に足立産の野菜を取り入れたり、収穫体験などを受け入れ、小・中学生に地域の農業や豊かな食を伝える農家もあります。

区内小学校では、農家からアドバイスを受け、江戸東京野菜「千住ネギ」の栽培授業で採取した種を下級生に引継ぎ取り組みも行われています。

農



北千住駅近くの学園通り旭町商店街で

活気ある商店とまち

魚屋、八百屋、精肉屋や飲食店など、活気あふれる個人商店が軒を連ねる商店街。メディアで取り上げられることも多い足立区の商店街数は、現在でも70を超えます。マルシェなどの新しい取り組みも。

地域で愛されるお店をもっと知ってもらいたいと始まった、みんなが選ぶテーマ別「あだちの輝くお店セレクション」では、毎年、足立区の新しい魅力を再発見・発信しています。

商



生物園

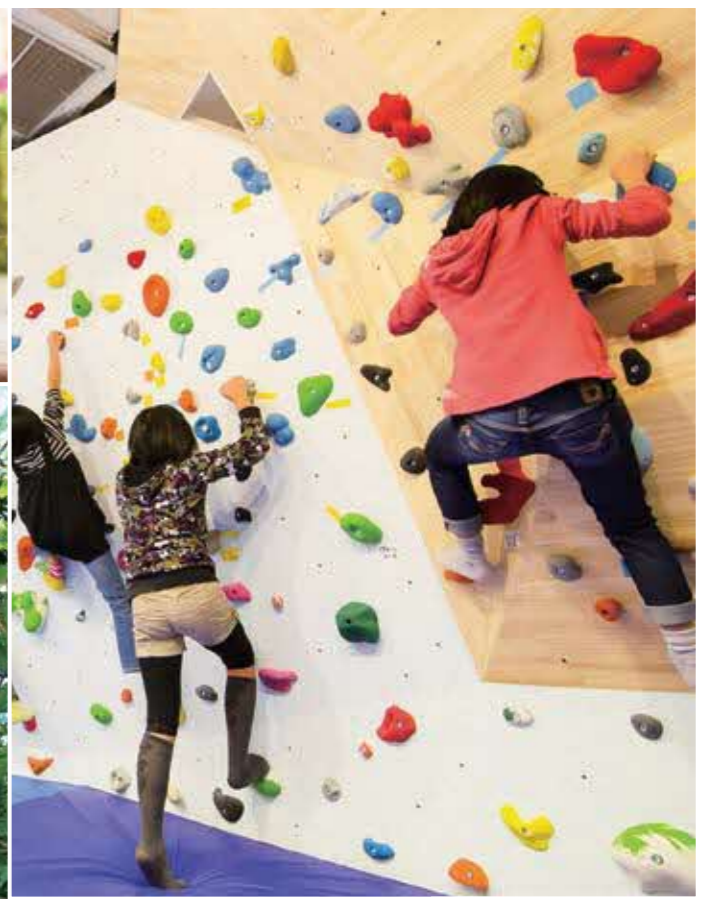
様々な生きものと出会う。

〒121-0064 足立区保木間2-17-1 TEL.03-3884-5577

開園時間/9:30~17:00 (2~10月)
(区立小学校の夏休み中は17:30まで)
9:30~16:30 (11~1月)

南国の蝶が頭上を飛び交い、アマゾンの大魚ピラルクが泳ぐ水槽もある大温室。里山の自然を再現した昆虫ドーム。約35種類の金魚が泳ぐ大水槽。一年中ホテルを育てる飼育室…。意外性のあるユニークなゾーンがいっぱいの、動物園ならぬ「生物園」は、全国的にも珍しい施設です。

とにかく生きものが近い！愛情たっぷりに生きものたちを育てる飼育員に直接質問できるのも魅力です。



ギャラクシティ

遊びながら学べる。学びながら遊べる。

〒123-0842 足立区栗原1-3-1 TEL.03-5242-8161

開館時間/9:00~21:30 (こども体験エリアは18:00まで)

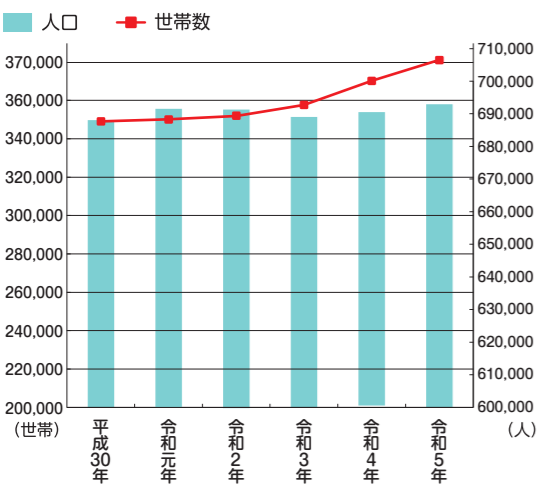
子どもたちの成長をバックアップする体験型複合施設です。高さ7.5mのクライミングウォールや国内最大級のネット遊具など、体と頭を思いっきり動かして遊べる遊具が勢ぞろい。作業エリアでは、創造力や表現力を高めるものづくり体験などを楽しむほか、日本文化に触れる「ジャパンフェスタ」、様々な仕事を体験できる「こどもおしごとらんど」などの人気イベントも。また、ドームの大きさが23区最大のプラネタリウムでは、まるで宇宙にいるような感覚を味わえます。

Basic Data

足立区の世帯数	371,481世帯 (令和5年11月1日現在)	23区中 第4位
足立区の人口	693,073人 (令和5年11月1日現在)	23区中 第3位
足立区の面積	53.25km ² (令和5年11月1日現在)	23区中 第3位

世帯及び人口 (各年11月1日現在)

鉄道網の発達、西新井地区・新田地区・千住大橋地区などの拠点の再開発や大学の誘致などが進んだことにより、他自治体から足立区に移り住む人が増え、人口はこの5年間で約4,400人増加しました。



令和5年度当初予算(歳入)

総額	3,158億7,959万円
特別区税	536億8,707万円
特別区交付金	1,110億5,900万円
その他一般財源	197億4,755万円
国庫・都支出金	954億999万円
繰入金	239億7,193万円
諸収入	34億8,244万円
特別区債	15億3,500万円
その他特定財源	69億8,661万円

令和5年度当初予算(歳出)

総額	3,158億7,959万円
議会費	9億7,028万円
総務費	395億9,445万円
民生費	1,483億4,513万円
産業経済費	60億7,758万円
環境衛生費	258億1,099万円
土木費	236億2,904万円
教育費	407億7,471万円
公債費	37億8,907万円
諸支出金	264億8,833万円
予備費	4億円

※ 歳入・歳出については、表示単位未満を四捨五入し、端数調整をしていないため、合計などが一致しない場合があります

区のシンボルマーク

足立区のAを元に、都市・自然・人間の調和を、水と緑のカラーで未来への飛躍を表現しています。(平成3年制定)



区の紋章

「足立」の足の字を図案化したものです。(昭和33年制定)



図書館が多い

どこでも本に触れられるまちをめざす足立区。図書館数は15館と23区で3番目に多く、ほかにも大学や区施設など、貸出・返却ができる6つの窓口があります。



江戸時代からアートのまち

今も「アートのまち」と言われる千住ですが、近年、江戸・明治時代に描かれた琳派などの美術品がぞくぞく発見され、美術界からの注目が集まっています。宿場町としての繁栄をベースに、生活の中で、豊かな文化が育まれてきたことがわかります。



区立学校数 No.1

足立区立の小学校数は67校、中学校数は35校。合計102校(※)で区立学校としては23区で最も多い数です。小中学校が連携して、子どもたちが健やかに育つ環境づくりに取り組んでいます。
※ 令和5年4月1日現在

足立タイムトラベル

現在の足立区が位置する場所は、かつて海辺に接する低湿地帯で、葦がたくさん生えていたところから「葦立ち」と呼ばれ「足立」になったという説があります。
1594年(文禄3年)、隅田川に最初の橋として千住大橋が架かると、多くの人たちが千住を往き交うようになります。千住は日光と江戸を結ぶ日光道中の初宿「千住宿」として、多くの旅人へにぎわいました。松尾芭蕉が「おくのほそ道」へと旅立ったのも千住です。
江戸時代には、湿地だった東部にも新たに人々が住み始め、明治時代を迎える頃には、足立区の大部分は米や野菜をつくる農村地帯となりました。
大正時代になると数多くの工場や住宅ができたため、人口が急増。
足立区の名称は1932年(昭和7年)、旧東京市に編入された際に誕生。1947年(昭和22年)に東京23区のひとつとなりました。



区の木

さくら



区の花

チューリップ



友好自治体

新潟県 魚沼市
長野県 山ノ内町
栃木県 鹿沼市



姉妹都市

ベルモント市 (オーストラリア)



返さなくていい奨学金

足立区では2023年度より、学業成績が優秀でありながら経済的な理由により修学が難しい学生を対象に、4年間で約826万円を上限とする給付型奨学金をスタート。ほかにも民間教育事業者を活用した「足立はばたき塾」、中1向けの勉強合宿など、区独自の学力向上支援策は、各方面から注目を集めています。

公園面積が広い

水と緑が身近にある足立区。足立区立の都市公園面積は2,245,166m²、その広さは23区第2位(※)です。
※ 令和5年4月1日現在



穴場な街 No.1

SUUMO「住みたい街ランキング 首都圏版」の「穴場だと思っ街ランキング」の1位に2015年から9年連続(※)で北千住が選ばれています。
※ 2018年調査より調査方法を一部変更

東京で一番早い花火大会!

足立の花火は1時間に約13000発打上げられる超高密度花火。花火シーズンのスタートを飾り、広々とした荒川河川敷に座って見上げる大輪の花火は、大きな感動をくれます。
このほか、舎人公園千本桜まつり、しょうぶまつり、あだち区民まつり、光の祭典と、1年を通して多彩なイベントを開催しています。

